様式第3号

会　議　録

会 議 名 （付属機関等名）		第3回　川西市総合計画審議会		
事 務 局（担当課）		総合政策部政策創造課		
開 催 日 時		令和4年2月17日(木)　午後7時から		
開 催 場 所		川西市役所4階　庁議室		
出席者	委 員	新川　達郎、 上村　敏之、伊藤　嘉余子、片山　優子、 神谷　牧人、 渋谷　和正、 中野　雅文、 松浦　龍基、 水野　優子、 山本　利映 ※敬称略		
	そ の 他			
	事 務 局	越田市長、石田総合政策部長、船木総合政策部　副部長、野田政策創造課長　他課員2名		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		次ページに記載		
会 議 結 果		別紙会議計画のとおり		

令和３年度　第３回川西市総合計画審議会 会議次第

日時：令和４年２月１７日（木曜日）
午後７時～

議題

(1) 第６次総合計画の策定方針（案）について　　【資料１】

(2)　その他

審 議 経 過

1 開　会

(事務局)

第３回川西市総合計画審議会を開会いたします。

(会長)

本日の出欠につきましては全員出席予定ですが、中野委員は遅れて参加されるとのことです。また、大学の都合により水野委員が少し早めに退席されると伺っております。

それでは議事に入ります。まず事務局から第６次総合計画の策定方針（案）について説明をお願いします。

(事務局)

―　説明　―

(会長)

今後の総合計画策定に当たっての基本的な視点や方向性、特に市として重点を置きたい点について事務局からご説明がありました。説明のあった内容で、計画の策定に進んで良いのか、足りないところや修正を加えるべきところについても、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。では、上村委員お願いします。

(上村委員)

策定方針（案）について、よくまとめていただいたと思っています。全体的な構成については、ほとんど異論はありません。ただ、いくつか気になるところがありましたのでその点についてお話をします。

めざす都市像について挙げておられる 3 つのキーワードについては、賛成です。「多様性を認め合えるまち」「こどもが幸せなまち」「チャレンジできるまち」とありますが、2. 本市の大きな方向性のところについては、チャレンジできるまちの部分について、少し弱いのではないかと思いました。

例えば、市民一人ひとりがまちづくりのプレイヤーとして活躍できる舞台をつくるということがチャレンジできるまちを示すことだと思いますが、どのようなチャレンジがあるのか見えないと思いました。

事前に事務局より提供のあった資料集を拝見すると、昼夜間人口が結構低く、恐らく大阪府で勤務されている方が多いと思いました。もちろん住宅地かそうではないかという違いがあるのですが、川西市民のチャレンジの場というのはどこなのかについて、もう少しイメージを持っておいた方が良いと思いました。つまりチャレンジの場は、勤務先の大阪府か、川西市かというイメージが、我々の中でもしっかり定まっていないということです。

例えば、週末は川西市にいる方が多いということで、週末にチャレンジできるというようなまちなのか、平日も川西市で仕事をし、活躍できるまちにしていくのかでは、ま

ちづくりのコンセプトが違うということです。

次にお話しすることは、現時点で検討するというより今後考えていかなければならないお話です。1 つ目はこれらの方向性の進行管理です。例えば持続可能な社会の構築を進めるというものがありますが、人口減少を前提とした社会の形に変えることはあるとしても、あまりにも人口が減ってしまった場合は持続可能とはいえないということです。

資料集の社会増減の状況についてですが、30 代は社会増になっていますが、10 代は社会減という状況になっています。単年度しか見ていない資料のためここ数年の傾向については分かりませんが、県としても全体的に 10 代は社会減になっているので、川西市としても学生は出ていってしまっている状況はあると思います。ただ、これまでの議論からいくと、30 代から 40 代で取り戻すことが大切と議論してきたと思います。

30 歳から 40 歳代の社会増をどう増やすのかについてですが、恐らく多くの方は子育て世代だろうという予想から、こどもが幸せな社会を形成するという方向性が合ってくると思います。私が言いたいことは、どこの数字を改善するのかについて、明確化していく作業が方向性の一つひとつに必要になるということです。

2 つ目は、この方向性が確実に進んでいるということを市民が実感できる仕組みを持つことがとても大切だということです。

例えば、市民一人ひとりがまちづくりのプレイヤーとして活躍できる舞台をつくると書いていますが、その状況を市民が共有できるのかが、とても重要です。例えばこういうプレイヤーがいるということを web サイトや広報誌を使って紹介していく仕組みを市が持つ、民間で周知してもらうなど方法はいろいろありますが、要はまちが変わっていく、変えていくプレイヤーが増えているということを市民と共有する必要があるということです。

チャレンジができるまちについても、チャレンジをしている人にクローズアップして、市民と共有していくことはとても大切です。成果を実感できるかどうか、つまり川西市は変わっていると共有することが重要だと思います。

最後に 3 つ目ですが、兵庫県も知事が変わり、新しい予算が編成されようとしていますが、県の政策と連携が可能な場合は、県との連動が重要だと思っています。市の財源の節約にもなりますので、県の予算と事務事業をチェックし、同じ方向性を持つような事業であるならば、連携事業の展開も大切ではないかと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございました。めざす都市のイメージのこれまで審議会で発言のあったキーワードについてご意見をいただきました。このチャレンジのイメージについて、もう少し具体化をしていった方がいいかもしれません。

また、進行管理という面から具体的な目標数値をどのように設定をしていくのか、そしてこの計画の進捗について市民と共に進めていくことができるのか、県の事業との連携、この辺りは広域連携の視点とも関連するかもしれませんが、ご意見をいただきました。では、神谷委員お願いします。

(神谷委員)
　今の意見についてですが、チャレンジという言葉だけを聞くと、とてもアグレッシブな感じがします。トッププレイヤーを育てるというようなイメージを思いました。私は日常的な生活の中で、自分も新しいことを始めてみようと思うこともチャレンジではないかとイメージしますが、一般的に「チャレンジ」という表現が強くなってしまうと、トッププレイヤーの育成のようなニュアンスが出てきてしまうのではないかと思います。
　事務局から頂いた資料でおもしろかったのは、川西市民の移動状況です。平日は大阪府に行っているけれど、休日には猪名川町に行っているということが驚きでした。また、市民意識調査の結果では、住み続けたい理由として自然環境が良いということが１番に挙がり、近所づきあいが良好であることの順位はあまり高くないという結果がみられました。ここ最近は、家族という小さな単位で何かを楽しむというようなイメージということが資料から読み取れるのではないかと思います。
　川西市がどんなまちであればいいかについてですが、川西市民としては、芸術活動が充実しているまちであってほしいという気持ちはそんなに高くないことがアンケートから読み取れます。チャレンジができるようなまちは、イベントを企画する人がどんどん生まれる、学生でまちを活性化させるみたいな印象を持ちますが、このアンケートを見ていると、市民はそれぞれのライフスタイルの中で、楽しみたい、やってみようかなというチャレンジができることが大切だと思いました。
　私は単身赴任で沖縄県から川西市に来ていますが、沖縄県は米軍の基地があるので、スケボーだけができる公園やバスケットボールができる公園があり、外国人の人と一緒に試合をしてみるということを中学生がやっていたりします。
　家族連れは大きな公園で遊具があって遊べるところもありますし、目的によって公園を選ぶことができる仕組みになっています。つまり、それぞれの置かれた環境の中で新しいことをやっていけるようなことがチャレンジという考え方もあるのではないかと思いました。事務局からの事前資料や、上村委員の意見もお聞きし、チャレンジの定義はとても広いのではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。重要な論点をいただきました。チャレンジをしていくということにもいろいろな捉え方があるということですね。みんなが自分のチャレンジをできるまちになることで、その中からきっとトッププレイヤーも出てくるのではないかと思いました。その他、いかがでしょうか。水野委員お願いします。

(水野委員)
　私も二人の委員の意見に賛成です。チャレンジという部分については、私も少し引っかかっておりました。
　少し話が逸れますが、今回の総合計画については、基本構想の中に大切にする考え方(行動指針)という考え方が入っていますが、私はこれがとても良いと思いました。一人ひとりの小さな行動を変えることが、社会やまち自体に影響を及ぼしていくという、考

え方はとても大切だと思っています。
　話は戻りますが、総合計画は身近な幸福や、身近な暮らしというところを示した地に足がついた計画であると思っていますので、少しチャレンジという言葉は違和感があります。そういったことでいくと楽しむだけではないですが、暮らしを楽しむ、身近な環境を使いこなすということが大切だと思います。
　先程、川西市は緑が多いというお話もありましたが、川西市に多く立地するニュータウンでは、とても公園が充実しているのですが、例えばそうした身近にあるものを使いこなすことで、更に豊かな暮らしができるというようなイメージが伝わるといいのではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。大切にする考え方のところについて、一人ひとりが自分自身を省みながら行動してくということはこれからの川西市のまちづくりの基本になると思います。その内容についても、また議論いただければと思っております。
　あわせて、チャレンジというよりは、それぞれの暮らしのなかで、試みをやってみようと思えるようなまちになれると、みんなが幸せな社会になるかもしれないと思いながらお話を聞いていました。では、伊藤委員お願いします。

(伊藤委員)
　少し話が変わるかもしれません。まず 1 つ目ですが、事前にいただいた川西市市民意識調査から、健康というキーワードに関する意見が多いという印象を受けています。市として 10 年後にどんなまちになっていてほしいかという質問や、そのためにいま大切にすべきことを確認している設問について、医療サービスの充実が必要だという意見が 1 位となっています。また、川西市に住み続けたくないと回答している人の理由の 2 位についても、保健医療体制が整っていないという意見があがっています。
　住みよい生活という視点でみるとチャレンジという視点よりも、基本的な well-being といいますか、心と体の健康を保って暮らせるまちにするというところが、あってもいいと思いました。
　2 つ目ですが、先程の事務局からの説明の中で、みんなでつくる計画のみんなとは誰かということについて、議論があったということですが、第 1 回審議会でもみんなが自分事にして考えるという話がありましたので、私達でつくるなど、一人称にするようなキャッチフレーズがあるといいのではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。市民生活の基盤となる well-being というのが、市民生活の大本になければ、いろいろな幸せというのも当然成り立たないと思います。その部分もしっかりと見据えながら、議論をしないといけないというご意見をいただきました。それから、みんなで作るということについては、一人称はどうかという案もいただきました。市民一人ひとりが「私」だというふうに表現することは良い意見だと思いながら、お話を聞いておりました。どうぞ中野委員お願いします。

(中野委員)
　少し遅れての参加で申し訳ありません。私からは、策定方針(案)の中の 5.次期計画で大切にする視点についてです。
　複数の項目を挙げていますが、計画を策定する際の視点と、計画策定後の実施段階に移ってからの視点が混在していると思います。前回の審議会でも話にあがっていたプラットフォームづくりが大切という視点は計画を実施する際の仕組みの話だと思っています。プラットフォームづくりについて、今回この計画の中でやっていくことが、表現方法として少し分かりにくいと思いました。6.取組や 7.策定に向けた体制に記載している取組というのは計画を作る段階における取組と解釈しております。
　実際にみんなで達成をめざしていくということは、計画の実施段階の話となりますので、実施における仕組みについても、今後審議会で議論をし、何を織り込んでいくのかを決めることが必要だと思いますが、現時点では少し不明瞭だと思います。

(会長)
　ありがとうございます。ご指摘の通り、両方の側面があります。まずは、総合計画の基本構想、基本計画をどう作っていくのかという視点と作成した後の基本計画をどう実行していくのかというところの視点が共に記載をされているところがあると思います。
　ただ、実施計画の段階までを見通して基本計画を作るということを意識して構想を練っておく必要はあると思うため、実施方法については基本構想・基本計画を議論する段階でも議論をしておく必要があるということです。この部分について、事務局で補足があればお願いします。

(事務局)
　中野委員ご指摘の通り、5.次期計画で大切にする視点については計画の策定段階で大切する視点と、計画策定後に大切にする視点を記載しています。2 つを記載している想いとしては、これまでの行政計画は作って終わりということが多いという批判も受け、私達が作る計画を同じような計画にしたくないという想いからです。計画を作ったからには、しっかり達成していくということです。先程上村委員からもご意見をいただきましたが、進捗状況をしっかり把握し、みんなで共有していくことが重要だと思っています。計画を作る段階から、作った後のことを意識する必要があるという想いが次期計画で大切にする視点には入っています。

(会長)
　ありがとうございました。その他いかがでしょうか。どうぞ、神谷委員お願いします。

(神谷委員)
　今日は策定方針を議論する場のため、具体的なお話は少し話がずれてしまうかもしれませんが、少しお話をさせていただきます。私自身が会社を経営するなかで、多様性を大切にしようとした時に管理職に求めることは、ファシリテーターとしてみんなの意見を聞くという姿勢です。多数決やトップダウンではなく、みんなの意見を聞き、どう

コンセンサスを得ていくかという力が求められると思っています。
　やはりどこかを立てれば、どこかを諦めなければならないということは必ずついてくるものです。こども施策を進めれば、高齢者はどうなるのかというような意見が出るなかで、タウンミーティングについては計画を作るときだけに実施するのではなく、ファシリテーターのような人を育成し、タウンミーティングを継続していくことが大切ではないかと思います。
　先程、公園について意見が出ましたが、私もこどもが小さいときは、おもしろいなどの理由があれば車で 50 分ぐらいかけてもその公園まで行っていました。例えば、そこに住んでいる人達が、まちの公園についてタウンミーティングで話し合い、絶えずみんなでバージョンアップしていくことが、プラットフォームを作ることに繋がっていくのではないかと思います。

(会長)
　これまで少し欠けていた観点かもしれません。形にした計画というより、計画そのものが成長する、実際に実行していく段階で市民と共に中身を作り直していくというようなイメージも持つ必要があるかもしれません。神谷委員からは、参加型の実施ができる計画というコンセプトをいただきました。松浦委員お願いします。

(松浦委員)
　事務局よりご説明いただいた策定方針（案）については、川西市がめざす方向性について明確になっており、また前回の審議会の意見も反映されているため、特に反論・異論が出るようなものではないと思います。
　そのうえで、2 点私の意見を申し上げます。1 点目は、具体化の観点です。例として「こどもが幸せな社会を形成する」を挙げますと、こどもが幸せだとみんなが幸せになるということについて、おそらく反対する市民はほとんどいないと思います。ただ、川西市役所としての「こどもを幸せにするための政策」の進め方には、公園を作る、手当を増やす、保育所を作る、いじめ対策を徹底するなど、いろいろな方法があると思います。少し例がふさわしくなかったかもしれませんが、政策がより具体化すればするほど意見が分かれるものだと思います。「幸せにする」ということは、とても幅広いものだと思っており、こども向け施策の中でもどこにターゲットを置くのかということが、これからの議論として必要だと思っています。もう少し別の例を出すと、先程スポーツの議論がありましたが、例えばスケートボードパークを作ってオリンピック選手を育成するとか、野球場を整備してプロ野球選手を育成するというものもトップレベルの育成という意味で一つの幸せだと思いますし、もっと幅広い層に向けて誰でも遊べる公園をたくさん作るというのも幸せだと思います。恐らく全部はできないので、次回以降の議論になってくると思いますが、総論賛成各論反対みたいなことにならないかを懸念しています。
　2 点目は、政策を推進していくときに「相対的に注力度が下がる」ものが出てくる点です。先程の例で言うと、こどもが幸せな社会を形成するために財源を投入し、職員を配置して注力していくということは、相対的に別の部分が手薄になるのは致し方ないと

思います。それは、どの分野の政策となるかは分かりませんが、そこをきっちり説明しないと、一般市民の立場から見るとうさんくさいきれいごとに聞こえるように思います。こどもから大人、高齢者、男女、サラリーマン、起業家、主婦などあらゆる人を全員幸せにします、という政策は実現性が低いです。財源等に制約があることを知っている市民は誰一人信用しません。ただ、これも本日の議論というより、次回以降の議論になるとは思っています。

(会長)
　ありがとうございました。今回出ている基本的な視点そのものが持っている重要な論点についてご指摘をいただきました。
　こども達のことを考え、中身をどう具体化していくのか、また他の多くの方にとっての幸せとの関係というものをどう考えていくのかということは、今後当然考えなければならないと思いながら、お話を聞いておりました。こどもたちのことをしっかり考えていくことは大切ですが、もう一方でそれ以外のことも考えていくことが総合計画の総合計画たる所以かもしれませんし、また皆様からの意見を求める点になるかもしれません。続いて、上村委員お願いします。

(上村委員)
　先程のチャレンジがずっと気になっています。チャレンジは良い言葉だと思っていたのですが、他の言葉がいいのではないかというご意見や、well-being という言葉のヒントもいただき、再度考えておりました。well-being も良い言葉だと思ったのですが、一般的に多くの方が知っている言葉ではないので、なかなか難しいとも思いながら、悩んでおりました。そこで、「チャンスのある」という言葉も良いのではないかと思いましたが、他の皆様のご意見はいかがでしょうか。チャンスのあるまちという方が、ハードルが下がりイメージに合うのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

(会長)
　ありがとうございました。チャレンジに代わる代替案として、チャンスという言葉をいただきました。神谷委員お願いします。

(神谷委員)
　キーワードについては私も考えていました。それぞれの自分らしさや自分の幸せを発見できるまちなどもいいのではないかと思いました。今からお話することも今後、深めていくことだと思いますが、少しお話させていただきます。
　先程、伊藤委員から医療に関してお話がありました。数字が極端に特筆していることは私も気になりましたが、コロナに引っ張られているというところもあるのではないかと思っています。最近の報道などを見ていると、病床数が足りないという話をよく耳にします。足りないと何が問題なのかというと、症状が軽い人も重い人も病院に運ばれていくと、いざ本当に治療が必要な人が運ばれてきた時に十分な治療が受けられないというところが問題ではないかと思います。

デンマークは家庭医制度というものがあり、人口何千人かに対して家庭医を設け、まずは全員、日常的にそこに行きなさいという制度となっています。つまり、いきなり総合病院に行けない仕組みになっているということです。なにかあれば、まず家庭医のもとへ行き、そこで総合病院での専門的な治療が必要と言われた人が総合病院に行ける仕組みになっているということです。今、病床数が足りないという話から病院を建てるのかというと、今後、人口は減少するといわれているのに、ハード面をどんどん進めていくことが、本当に医療の充実といえるのかと考えると、私としては、まず日常的に診てもらい、症状の重さを判断することで、一定のベッド数を確保することができ、継続的な医療が成り立つのではないかと思います。

地域単位等で治療の話だけでなく、メンタル的なものや健康に関する相談について、ソーシャルワーカーが日常的に聞いてくれるという仕組みもあります。日本は、もう少し小さな地域単位で日常の健康を守ることを大切にするべきではないかと思っています。ですから、いきなり総合病院に行く制度になっていることが、今の日本の課題ではないかと思います。

福祉の分野でも精神疾患や医療の分野でここ 5、6 年、フィンランド発のオープンダイアローグというものが流行っています。統合失調症や精神疾患の方に対して、投薬治療をメインとするのではなく、話を聞くことが効果的だということで世界的に広まり、5、6 年前から日本でもこのオープンダイアローグの話が出ています。フィンランドがおもしろいのは、この対話をする人が登録制で役所に登録されているということで、学校教育や地域の問題というのを、第三者が入り対話によって解決していこうという制度となっています。

先程、松浦委員からお話がありましたが、どこにどれだけお金をかけることがこどもの幸せになるのか、こどもの幸せはいろいろあるということを含めたうえで、例えば継続的に話し合いをするための人を設けるなどの仕組みをつくるなどの対応が必要だと思います。地区単位での話し合いによって予算を決めるなど、みんなで話し合ってお金の使い道を決めるようなプラットフォームを作るということも斬新でおもしろいと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました、重要なご提案を多くいただきました。オープンダイアローグというのは様々な問題解決の重要な手立てということで、障害の問題だけではなく、環境、福祉、行政の課題解決など様々な課題の解決に繋がる対話ということで認識しています。いろいろなやり方がありますが、その方向をいろいろと試している状況かもしれません。

どういうふうにこれからの川西市を組み替えていくことが良いのか、またご意見をいただければと思います。また、市民が主体的に関わっていける方法の一つとして予算の話がありましたが、既に世界でも約 400 の都市で市民予算制度という、市民の投票で予算の使い方を決めているところもありますので、いずれは考えてもいいかもしれません。では、山本委員お願いします。

(山本委員)
　ありがとうございます。先程のチャレンジとチャンスの話ですが、チャンスいう表現は、アメリカンドリームみたいな、川西市に来たら夢を掴めるというようなイメージを持つ場合もあると思います。
　チャレンジについても、みんながチャレンジをしたいのかというところが難しいと思いました。チャレンジをしたい人がいれば、チャレンジすることができるという意味だと思いますが、どんな言葉で表現すればいいのかが難しいと思いながら聞いていました。
　多様性や SDGs の言葉が出ていた件についてですが、兵庫県の令和 4 年度の予算の資料を拝見したり、私自身が SDGs を推奨していることもあり情報が入ってきたりしているのですが、4 月以降知事も SDGs を推進していきたいという想いがあると伺っています。県が動き出す中で、川西市としてどういう取組をするのか、川西らしさということをどう出すのか、今まで行政のどういうところが使いにくかったということや、どういったところで多様性が認められてないところがあったかという良くなかったところも踏まえて、今後の具体的案を作っていく必要があると思います。

(会長)
　ありがとうございます。良いアイデアをいただきましたので、積極的に考えていただければと思います。多様性と SDGs はおっしゃる通り、川西市が持っている課題や問題点も踏まえて、この多様性や SDGs の達成ということを考えていくと、本当に川西市らしい SDGs になっていくのだろうと思います。
　どちらかといえば、まちのカラーが一定していて、大都市圏の勤労働者を中心としたまちではありますが、一方ではそこに隠されている様々な課題、格差、差別の問題等も見ていかなければいけないかもしれません。このあたりも含めて、むしろ川西市ならではのこうした SDGs への答え方というものを考えていかなければなりません。なかなか表現も難しいですが、今後の議論の中でも深めていかなければならない点だと改めて思いました。そのほかいかがでしょうか。上村委員お願いします。

(上村委員)
　事務局に質問です。本市の大きな方向性の順番についてはなにか意図があるのでしょうか。

(事務局)
　すみません、並び順に関しての検討はできていません。

(上村委員)
　わかりました。順番にも意味があるように考えた方が良いと思います。例えば大きな目標から記述するということや、関係のあるものを並べていくなど、意識をされた方がいいと思いました。
　また、冒頭に申しあげた、どうやって市民と成果を共有するのかというところが、5.

次期計画で大切する視点に入っていないことが気になります。進行管理については記載がありますが、この文章だと委員会が進行管理をするだけだと読めてしまいます。みんなで作る計画をみんなで進めていこうとするのであれば、みんなで進行管理をし、成果をちゃんとシェアしなければいけないと思います。その部分については、もう少し明確に書いた方が良いと思います。

(会長)
　ありがとうございました。重要な論点です。事務局でも、ぜひそういう方向でご検討いただければと思います。2.本市の大きな方向性、5.次期計画で大切にする視点のあたりもしっかりとご検討いただければと思います。本日だけでは、なかなか結論は出ないと思いますが、今後検討をするということで、よろしくお願いします。その他いかがでしょうか。どうぞ、片山委員お願いします。

(片山委員)
　私もまだ頭の整理がついていない状況ですが、まずこどもが幸せなまちというところです。他の委員の方から公園のお話などがありましたが、私は、川西市も公園自体は多くあると思っています。ただ、昭和の公園が多くとても古いです。
　私も保育園で毎日こどもたちと公園を利用しますが、新しいものだとキセラ川西せせらぎ公園がありますが、住宅地の公園はとても危険な箇所があり、古いという声を多く聞きます。
　また、人気の公園ですが、私の主観ですが、川西市で１番人気があるのは一庫公園だと思っています。北部の黒川地区にある公園ですが、特にすごい遊具があるわけではないのですが、面積が広いことと、ロケーションが山の中にあるという魅力をもった公園です。私はそれがとても川西市らしいなと思っています。フリーパークほどアウトドア感もなく、かといって遊具も最新のものを用意しているわけでもないのですが、川西市のお母さんやお父さん達がここにこどもを連れてきたいと思うところが、何かそこに集約されているような安全な自然の公園というイメージの公園です。やはり公園の利用ひとつでも、連れてくのは親ということもありますので、こどもが幸せなまちという言葉を、親子が嬉しいまちと言い換えるのもいいのではないかと思いました。
　もうひとつ、市民意識調査の医療サービスのところは私も気になっていました。川西市から病院がどんどん無くなっていくような不安をなんとなくですが感じています。また、自分がこどもを産もうと思っても、産婦人科が選べなくなっているという身近な不安もありますが、今年の９月に川西市総合医療センターができると、また少し違った局面があるのではないかとも思っています。

(会長)
　ありがとうございます。親子の視点、川西市らしいこども達の育み方、自然と安全と都市部であることが、うまくミックスされているようなところに川西市の良さがあると思いながらお話を聞いていました。
　医療について、基礎的な医療サービスというものをどういうふうにこれから組み立て

直していくのかについては well-being そのものを支える土台をどう作っていくのかという大きな課題であると思っています。このあたりをどこまで総合計画の中でいうのかという議論はありますが、市民一人ひとりがより良く生きていくまちづくりの基盤をしっかり作っていくことが、総合計画の役割でもあると思いますので、今後議論ができればと思っています。上村委員お願いします。

(上村委員)
　片山委員がおっしゃられた子育ての公園の話ですが、東京にいたときに千葉県の子育て関係の審議会に参加をさせていただいた経験から知ったのですが、公園を作るということはとても難しいようです。要は遊具というものは、大人がこどもの遊び方を規定している、それで本当にいいのかという議論があるそうです。
　自然は結構危険なところもありますが、できる限り危険を取り除き、自由に遊ばせてあげた方がこどもたちの想像力も豊かになるというお話もあるようです。
　あまりこの場で個別政策のことに対して発言することは良くないのですが、そういう話もあるという情報提供とさせていただきたいと思います。以上です。

(会長)
　ありがとうございました。仕組みも基準も変わっていかないと、私達の暮らしそのものも良くなっていきません。そうした観点からも考えるべきことが多くあります。その基本的な視点をしっかり固められれば、公園のあり方なども片山委員や上村委員がお話された方向を向くことになるのだろうと思います。神谷委員お願いします。

(神谷委員)
　DX などの話も出ているなかでずっと考えていたのですが、こういうものを活用しプラットフォームを作りながら、いろいろな意見を出し、自分達で自治をしていくというまちづくりに参画できるのは、20 代から 40 代の世代ではないかと思います。最初に少し行政で整備をすれば、運用などは企業に投げたとしても、広告収入などで運営をやっていけると思います。
　高齢者支援や産婦人科がないなど、生命の安全に関わる部分の安心があるかということについては、その地域に長く居続けるかの基準になると思うため、資金の使い方は考えるべきだと思います。やはり行政という立場上、セーフティネットは絶対に下げてはいけないことだと思います。このセーフティネットのレベルが上がれば上がるほど、安心して住めるまちになるのだと思います。
　チャレンジという部分については、公民館などの施設や、技術をどんどん活用することで、いろいろな人達が活躍できる場所ができると思います。お金の使い道と、松浦委員がおっしゃられたような、どこに力をいれていくのかというところの目安になるのではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。計画の中では行政の役割というものも重要ですが、もう一

方ではマーケットや市民の役割ということも考えていく必要があるかもしれません。行政も市民も試みの中で市民一人一人の暮らしが少しでも良くなるような都市をめざしていくことが大切だと思いながらお話を聞いていました。
　どこまでうまく今の業務を取り込めるかはわかりませんが、DX という新しい道具等を活用しながら、新しい行政の役割、新しい市民の役割をつくっていけるとこれまでにないことができるのではないかと思います。では。山本委員お願いします。

(山本委員)
　ありがとうございます。先程片山委員がおっしゃった子育てのお話について、私も親子という表現が良いと思いました。親に限定しなくてもいいのかもしれませんが、共に育てていく大人という表現が良いと思いました。
　今はコロナ禍であることもあり、難しいところではありますが、SNS で「保育園が休園になった、仕事をどうしよう」っていうつぶやきが飛び交っていたり、昨年、川西市でお子さんの虐待死があったりしたと思います。私も今はあまり活動ができてないのですが、子育てサークルなどを運営していた中で、お父さんやお母さんの声を拾いきれていなかったということや、何かできなかったのかと思うこともありました。自分が拾い上げられるのかというと、どういう対処がいいのか悩む部分もあったりしますが、やはりこどもの幸せというものを考えたときに、親への支援も重要だと思います。そういったところで親子という言葉は、親にも目線を向けてくれていると感じられる部分になるのではないかと感じました。

(会長)
　ありがとうございました。片山委員からもありましたが、こどもだけではなく、もう少し広く考えないといけないという観点でこどもとそしてこども達を取り巻く環境をしっかりと支えていけるような社会にしていかないといけないと改めて思いながらお話を聞いていました。
　その他いかがでしょうか。これまでの議論の中で計画の枠組みについてのお話はまだ出ていませんが、市長任期のサイクルに合わせての計画期間の設定など、事務局からは提案がありました。ご意見あればご発言をお願いします。どうぞ、伊藤委員お願いします。

(伊藤委員)
　先程片山委員、山本委員から親子というワードが出ました。そういう視点も大切だと思いますが、一方でこどもの幸せと親の幸せは必ずしも一致しないこともあると思います。親にとらわれないこどもの声を聞くということも大切だと思うため、こどもというキーワードを消さずに、親子という視点もいれるなど分けてもいいのではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございます。ご指摘のとおり、親子でまとめてしまうことの問題もあるか

もしれません。まずはこども達を中心に、こども達のためにどんな役割があるのかということから、環境を考えていく必要があります。ただ、親も幸せでなければこどもも幸せではないということもあるかもしれませんし、一人ひとりの暮らしのあり方やそれを支えられる総合計画の立ち位置をどう表現するのかについては、事務局でも少し頭を悩ませていただければと思います。本日、渋谷委員からまだお話がなかったと思うのですが、いかがでしょうか。

(澁谷委員)
　策定方針については、概ねこのような感じでいくとイメージがあったため、今回は発言を控えさせていただいておりました。やはり、具体的なことを早く決めていきたいという想いが、私自身も活動している中で想いとしてはあります。
　2.本市の大きな方向性のプレイヤーづくりのところですが、やはりこどもが幸せになるまちにする、まちを持続可能にしていくためには、こどもがプレイヤーになっていくような指針が次の計画で出てくると、もっとわくわくが増えていくのではないか、川西市に住みたいという方達が増えていくのではないかと感じています。

(会長)
　ありがとうございました。こどもたちは保護の対象になる場合だけでなく、それぞれまちを構成する大切な市民の１人です。こども達がそれぞれの夢や想いを実現できる、それぞれの生き方を選ぶ活動の中で、川西市全体が豊かになっていくという発想が大切かもしれません。もしかしたら、こども達の方がチャレンジ精神に溢れているかもしれませんが、もしかすると私達大人がそれを潰してしまっているかもしれません。そこはまた、ご議論をいただければと思っております。その他いかがでしょうか。上村委員、お願いします

(上村委員)
　会長のお話の中で、こども達の夢という話がありましたが、関連して幸福の経済学という分野について少しお話をさせていただきます。いろいろなデータを使って分析するのですが、こども時代の幸福度は高く、40 代頃になると下がり、高齢者になるにつれ、また上がるというデータがあるようです。これは、こども時代は、基本的にこうなりたいという野心があり高い、ただ大人になるにつれ、だんだんとその野心が崩れ下がっていき１番下がるのが 40 代、そしてまた上がってくということです。なぜ幸福度が上がっていくのかというと諦めの境地に入り、こんなものだろうと納得できるからということのようです。
　何が言いたいかといいますと、川西市はこども時代の野心を自己実現に繋げられるようなまちにできるといいのではないかということです。

(会長)
　ありがとうございました。ぜひ、そういう視点で総合計画が策定できると、チャレンジングな計画になりそうです。その他いかがでしょうか。水野委員お願いします。

(水野委員)
　些細なことですが、事務局から今回の変更点について「みんなが知っている」から「みんなでつくる計画」へ変更されたという説明がありましたが、知っているということも、大切なことではないかと思いました。今回の計画策定にあたって、いろいろなところで意見を聞き、いろいろな方が関わって計画をつくっていくことはとても大切なことだと思っている一方で、なかなか参加をしたり、発言したりすることができない市民も多いと思います。自分と行政計画というものの繋がりを感じられない、行政計画を知らないという人が一定層あると思うと、どこかで目に触れるなど、どこかで自分と関係性があるということを感じられるようなことはとても大切ではないかと思います。
　そういう意味で「みんなが知っている」ということも残しておくべきではないかと思いました。以上です。

(会長)
　ありがとうございました。川西市の人口規模で全ての市民が参加をし、一緒に計画を作っていくということは、難しいと思います。そう考えると、みんなが計画のことを知っているということの方が大切かもしれません。
　もちろん自分達の計画だと思っていただくことが必要ですが、そのためにもみんなに知っておいてもらうということは、大切なことであると改めて思いました。中野委員お願いします。

(中野委員)
　少し視点が違うかもしれませんが、総合計画について、これまでのものと少し視点を変えていかないといけないのではないかと思っています。人口の減少、それに伴う低成長の時代に入っていく中で、これまでと同じやり方でめざす姿は実現できないだろうという話から、新たな視点としてみんなでつくっていくという視点があると思っています。
　私は、市民の方もだんだん考え方が変わってきていると思っています。例えば今は自然災害が起こると、多くのボランティアの方が自発的に被災地へ向かう社会となっています。行政だけでは対応できないところを、ボランティアの方が助けることによって、対応できているというようなところもあると思います。
　総合計画についてもどういう形で市民に参加をしていただくのか、どういう役割をしていただくのかということを明確に位置づけていかないと、計画は立てたので後は行政でやってくださいという計画になってしまってはいけないと思います。まさしく今回の計画についても、みなさんの参加をもって計画を実現していこうとするのであれば、そこまでの議論をそれぞれの項目ごとにやっておく必要があると思います。
神谷委員からも DX 等を用いて、若い世代の方に参加をしていただいてプラットフォームの中で実現していくというような方法のお話がありましたが、そういった方法が有効なものもあるでしょうし、もう少し高齢者の方を中心として参加をしていただいたほうが良いものもあると思います。計画と実施をどうやっていくのかというところまでをセットとして、議論をしていくということが、新しい総合計画では非常に重要な要素にな

ると考えています。今後は、そのような点も考慮いただきたいと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。大切な論点をいただいております。計画を作るときはもちろん、実行をするところにも市民を組み込み、成果を出していく計画にしていかないといけないということでご意見をいただきました。このあたりも要素としては、5.次期計画で大切にする視点に入っているところでもありますが、事務局でも検討いただければと思います。その他、いかがでしょうか。松浦委員お願いします。

(松浦委員)
　今のご意見を聞いて、思い出したことがありました。資料の最後 7.総合計画策定に向けた体制ということで、市民参画の内容がいくつか記載されています。市民アンケート、タウンミーティング、団体との懇話会、市民会議、パブリックコメントと体制が示されています。感覚的に言いますと、こういう場に意見を出される方というのは、結構声の大きい方やこういうことに意見を言うことに慣れている方です。そして、本当に声を拾うべき日々の生活にお困りの方や一般市民の方は、お仕事が忙しいなどの理由から、なかなか参加されないのではないかと思います。これらの対策として、例えば携帯のアプリを活用するなどの方法も考えるべきではないかと思います。
また、総合計画の話ではないのですが、以前おもしろい話を聞いたのでご紹介します。
(2)その他のところに、高校生発案に係る取り組みという案がありますが、地元の高校の社会科の授業で、市のまちづくりについて議論し、その中で出た意見について高校の中で保護者も含めて投票し、優秀なものを市長に直接発表する機会を作るという取り組みです。保護者も高校生が一生懸命考えたアイデアへの投票なので、おそらく市が実施する市民意識調査より相当本気で考えます。こどもの発案なので、もちろん抜けているものもありますが、新しい時代に合った提案が期待できます。そういう取組も市民ニーズの反映手段として有効ではないかと皆様の意見を聞いて思い出しました。以上です。

(会長)
　ありがとうございました。今後の進め方の中で、特に若い世代の声というのをどういうふうに組み込んでいくのか、あるいはその声をどう的確に捉えることができるかについては、工夫が必要ですし、今後の進め方の中で工夫できるところがあると思いますので、事務局としてもご留意をいただけるとありがたいと思います。その他いかがでしょうか。

(上村委員)
　松浦委員のお話を伺い少し思ったのですが、実はこの策定方針(案)では、参加という言葉は使われておらず、参画という言葉で表現されています。これは恐らく意図的にそう表現をされているのだと思います。参加というのは、あるものに参加をするだけの表現ですが、参画は計画の作成段階から参加することを考えているということですので、参加という表現が使われてないということを我々は認識しておくべきです。ただ、参画

と表現するのであれば、協働という言葉も必要なのではないかと思います。入れるべき表現の箇所がなかったのかもしれませんが、委員の中では少し意識すべきところだと思います。

(会長)
　ありがとうございました。参画と協働という言葉は、行政あるいは市民生活というものを考えていくうえで、欠かせない要素になってきているのではないかと思います。総合計画の中でも、どう位置付けていくのかということについては、事務局の方でも整理をしていただければと思います。神谷委員お願いします。

(神谷委員)
　水野委員のご意見を聞き、やはり知っていることは大切だと思いました。例えば、私が「今日みなさん、会議が終わったら一緒に花織行きませんか。」と誘っても何のことか分からないと思います。花織は僕の地元にあるそば屋のことですが、要は共通言語になってないと話が通じないということです。
　高齢であったり障害があったり、母子家庭、父子家庭だったりといろいろな理由があり、話し合いの場に出向いていくことが難しい人もいると思うので。参加をすることだけでなく、知っているということも大切だと思います。ただ、参加の方法としても、例えば市民の日常会話のなかで「今日わたしタウンミーティングに行くんだよね」「私は行けないけど…私としては川西市にこうなってほしいんだよね」という会話があったとして、タウンミーティングに行けなかった人がいたとしても、その人の想いを「今日の話し合いには来ることができなかった私の友人はこんなふうに言っていました」と誰かが言ってくれれば、それは参加だと思います。みんなの共通言語にしないと、先程松浦委員おっしゃったように声が大きい人達だけで作るようなまちづくりになってしまうのではないかと思います。ですので、水野委員の意見を聞き、知っているということが1番大切ではないかと思いました。

(会長)
　ありがとうございました。「知っている」という言葉は復活せざるを得ないかもしれませんね。それではだいぶ時間も押してきておりますので、市長からご意見がありましたら、お願いします。

(市長)
　本当に聞いているだけで楽しい時間だと感じています。最初のチャレンジかチャンスかという議論については、素敵な議論だと思っていまして、私の表現で言うと「やってみようという気持ちを応援する」「後押しする」など、どうしても行政の立場から発言すると、こども達もしくは、何かをしようとしている人を後押ししていくことがまちづくりとして、私がやりたいと思うことです。どういう表現が良いのかについては、次回以降の議論にしていただきたいと思います。
　方向性の部分については、上村委員がお話をされた通り、バランスをどうするかとい

うことで、しっかりやらないといけないと思っています。松浦委員からの発言でもありましたが、具体的にこどもが幸せなまちをどうするかと言うときには、私のイメージでは、一つのことで判断するというよりも、多様性と困難にあるこどもというものがかけ算になってキーワードとなっていくのだろうと思っています。

実際に政策を実施していくというとき、川西市は 10 億円をかけてこんなことをするということができない状況です。まちの課題を見つけたとき、複層的に総合計画で定めた方向性や考え方に基づいて判断をしていくことになるのだと思います。それがまちの形になることで、まちとしての価値も出てくると、みなさんのご意見を聞き、感じています。

少し余談ですが、こどもの話でいいますと、この間、子育て世帯に対する臨時給付金について 960 万円以上の所得の方はどうするかということや、医療費無料化などの問題もありました。あまりそのあたりに手を出していない川西市としてはこのお話は苦しいところですが、私の今の価値観として、子育てとかこどもと言ったときに親が買ってあげられるものは親が買えばいいと思っています。でも公園というものは、年収が 2,000 万円ある方でもなんともできないものですし、こどもに何か支援が必要となった時に安心して通える場所の確保や、いじめがあったときに助けてくれる友達とか、こういうお金では買えないものの価値というものを我々は、まず大切にしていくべきではないかと感じています。

もちろん経済的に苦しい方々というのは、そもそもそこのお金がないわけですから、その後押しをするということは行政の使命としてあると思っていますが、子育ての中ではそういう価値観を私自身、大切にしたいということです。これもぜひ具体化していくときに様々な観点からご議論をいただきたいと思っています。

あと、やはり計画を具体的にするときに悩んでいる部分というのは、やはり計画に参加をすると、あんなんやったらいい、こんなんやったらいいという注文をするお客さんと注文に応える行政という形を、私は作りたくないということです。みなさん口を出してこうやったらいいと言ったときには、みなさんおひとりおひとりが自分事として何ができるのかということで、計画を作る人がその課題解決に一緒に関わっていただき、協働で取り組んでいくという、実行も含めた計画づくりということにチャレンジしたいと思っています。

ただ上村委員からもありましたように、これを市民に見えるようにする方法については、私も悩んでおります。例えば令和 4 年でいいますと、川西市立総合医療センターもできますし、川西市中学校給食センターもできます。越田が市長になって何ができたかというときに、箱物は見えるのですが、ソフト面っていうのは非常に見えにくいということです。ソフト面においても、地味なことをたくさんやっています。大切なことですがその実感というものをどう測っていくのか、感じてもらえるのかということは計画をつくるうえでイメージをしていきたいと思っています。単に PDCA を回すということではなく、参加や評価をする段階にも一緒に入っていただく、そんな仕組みについても、考えたいと思っています。

また「みんなでつくる」という文言のみんなという表現については、私達も非常に悩んでいます。これは私自身もマニフェストを作るときに、全ての人に居場所や出番とい

う言葉を使うと、私達のことを言ってくれていないということを必ずマイノリティの方から言われます。どうしても苦しい立場にある差別を受けてきた方々からすると、みんなとか、全ての人と言ったときに、自分事にはならないということです。どういう表現が良いのかについて、改めて難しさを感じていますが、伊藤委員から提案いただきました私達がつくるとかというのは非常に主導的でいいのではないかと思いました。

市民参画についても、まだ非常に悩んでいる部分です。担当の方からは従来通りのタウンミーティングではおもしろくないので、カフェでやりたいという意見もあがっているのですがカフェに 30、40 人来ていただくことが、本当にタウンミーティングになるのかというところもありますし、ご意見をいただいていましたが、タウンミーティングに来る人というのは、無作為でやったとしても、明るく元気で前向きな方の参加になるだろうと思います。どうしても困難を抱えている人達の声というものは、なかなか計画作りやタウンミーティングの中では拾えないところです。これについては、外部団体の方々とアクセスをしていくのか、他にアウトリーチ的な方法があるのか、テーマに沿って Zoom 開催とし、匿名で参加していただくことがいいのかは分かりませんが、困難にある方々がどんなことに困っているのかということを、どう集めていくのか、なかなか答えがないと思いますが、悩んでいます。

最後です。市民の予算制度についてですが、川西市も地域分権ということで、それぞれの小学校区単位にあるコミュニティ協議会というところに一定の予算を出しています。ただ、当初思い描いたような、みんなで議論をしたうえで予算が使われているかというと、やはり役員の方が中心で決めているという状況となっています。自分達でどうやって予算を決めていくのか、課題を解決していくのかというのは、何か制度を作って終わりというよりも、制度を常に我々が回し続けないと、どうしても機能しないという課題があります。自治をどうやって回していくのか、どう機能させていくのかということも、プレイヤーを作っていくということと同時に考えていきたいと思います。これは計画の中で盛り込めるかどうかは分かりませんが、ご提案をいただきましたので、次の議論として大切にしたいと思っています。審議会のメンバーのみなさんよりも喋ってしまう市長で、どういう諮問をしているのかというお声もあるかもしれませんが、こういう審議会がやりたくて私は市長になり、みなさんにお声をかけさせていただいたわけですから、もう少しお付き合いをいただければと思います。本日はいろいろとすばらしいご意見をいただき、ありがとうございました。

(会長)

市長のご意見に対して、委員の方々から言いたいこともあるかと思いますが、本日はもう終わりの時間が来てしまいましたので、大変恐縮ですがこのあたりで議論を終わらせていただきたいと思います。委員の皆様につきましては、活発な議論にご協力いただき、ありがとうございました。基本的に今回事務局でお示しいただきました策定方針(案)の方向性や枠組、計画の役割、大切にすべき視点は良いかと思います。ただ、言葉の選び方あるいは意味づけの仕方などについては、もう一度方精査いただければと思います。そのうえで次年度以降、しっかりと良い計画づくりに進んでいければと思っております。また、今後の計画の内容、特に基本計画レベルでの計画内容のあり方や、あるい

は実際の計画が完成するまでのプロセスにおける市民参画の方法、計画を実行する段階での市民参加のあり方についても大きなテーマとして委員のみなさまからご意見をいただきましたので、事務局においてもしっかりと検討いただければと思います。

それでは時間が参りましたので、事務局に進行をお返しいたします。

４．　閉会

(事務局)

それでは本日の会議は終了とさせていただきます。ありがとうございました。